

第 4 回天理市総合教育会議 議事録

開催日時	平成 27 年 8 月 21 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 3 時
開催場所	天理市役所 4 階 特別会議室
出席者	並河市長、森継教育長、田中教育委員会委員、中嶋同委員、 名倉同委員、前川同委員
欠席者	なし
事務局	山中公室長、木村総合政策課企画室担当課長、上村企画室長 葛本主査
事務局側	藤井副市長、竹株教育委員会事務局長、冬木同局次長、 吉岡学校教育課長、新居崎同課指導主事、 西岡教育総務課課長補佐、土田同課係長、吉本児童福祉課長補佐 上田総合政策課課長補佐（総合戦略担当）

◇会議次第

- 開会
- 市長挨拶
- 案件

1. 教育大綱について
2. その他について

◇資料

1. 第 4 回総合教育会議席次表
2. 第 3 回天理市総合教育会議議事録（概要）
3. 総合教育会議委員からの意見
4. 教育大綱関係施策一覧表
5. 教育大綱基本理念(案)
6. 教育大綱(案)

◇司会

<事務局 木村>

それでは、第 4 回天理市総合教育会議を開催します。委員の皆さまにはお忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。前回に引き続き、議事録を作成するため、本会も録音をさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いいたします。最初に市長の並河よりご挨拶を申し上げます。

◇市長あいさつ

<並河市長>

お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。前回まで、それぞれの項目について、本市としてどういう玉がありうるのかという点も含めて、ご議論いただいたところですが、本日は、教育大綱をこの形に一旦抽出いたしまして、これに前回までのアクションプランを別添で付ける形で整理させていただいております。今日目指していくべきゴールはどのあたりまでですか？

<事務局 上村>

今日は大綱（案）の内容を中心にご議論いただきたいと思います。

<並河市長>

大綱はそれぞれの柱ごとに、冒頭に課題と大きな方向性、そしてアクションプランほど具体的には書いていないですが、天理市としてこういったことを取り組んでいくという方向性プラスαのところまでを書いている状況でございます。それに対して、より深く、実際何をするのかを書いているこちらのアクションプランが付いているという構成ですが、そろそろ固めていきたいという時期にきておりますので、特に大綱のほうを中心に、それぞれの柱の課題、我々の問題意識、あるいは向かうべき方向性を全体に整理していき、表題は仮置きとして「ともに学び、夢を育むまち 天理」という言葉になっていますが、どういった言葉がいいか、まだこれについては若干余地がございます。名倉委員の方から、いいキャッチフレーズをとというご指摘も最初にありましたけれども、どういう要素を特に大事にしていきたいのか、議論の中から抽出されてくればと考えておりますので、90分どうぞよろしく願いいたします。

■案件1. 教育大綱について

<事務局 木村>

それでは案件に入っていきます。本日の出席者は、資料の3ページに席次表を載せておりますので、ご覧ください。また、4ページから19ページに前回の議事録の概要版を載せております。これにつきましては、事前にお目通しをいただいているものと存じますので、読み上げは省略させていただきます。

それでは、案件の議事進行を並河市長をお願いいたします。

<並河市長>

はい。それでは、案件1の教育大綱について、事務局から現状報告をお願いします。

<事務局 上村>

失礼します。資料がございますので、座って務めさせていただきます。教育大綱に入

る前に資料についてご説明いたします。20 ページから、前回の総合教育会議で大綱についていただいたご意見を箇条書きにしております。23 ページから 27 ページについては、ご意見を受けて庁内会議を行い、前回の資料を加筆修正したうえでまとめたアクションプランです。本日の会議につきましては、大綱（案）の議論を中心をお願いしたいと思っております。この二つの資料については、事前にご覧いただいていることと思っておりますので、時間の都合上、読み上げは省略させていただきます。大綱（案）と比べる形でお気づきの点がございましたら、合わせてご意見をいただければと思っております。

では、別紙の大綱（案）全体の説明でございますが、当初はA3の裏表の予定でしたが、多くの言葉が入る形になり、このような分量になりました。まず、最初のページは大幅に変更しまして、大綱の位置づけは一番後ろへ配置いたしました。基本理念、縦書きのキャッチコピーの部分ですけれども、言葉選びが非常に難しく、事務局も苦慮しておりますので、こちらはまた後でご意見をいただけたらと思っております。

では1ページ開けていただき、本編に入ります。それぞれの柱の下にある○付数字とアクションプランの○付数字は紐付けしていますので、大綱本編を読んで、もっと具体的に何をしているか知りたいという場合、アクションプランの同じ○付数字を見ればわかるということでございます。

全文を読み上げてからご意見を頂くと時間がかかりますので、一旦、1の柱「自分の力で未来を拓いていく力を持った人づくり」の(1)就学前教育の充実と(2)義務教育の充実で区切って、ご意見を伺いたいと思います。要点だけかいつまんでの読み上げとさせていただきますのでよろしくお願いします。

まず、1の「自分の力で未来を拓いていく力を持った人づくり」ですが、前のほうに現状の課題を書いております。この課題を中心にどのような形で乗り越えていくのかということを書いております。 [(1) (2) の要点読み上げ]

この部分につきまして、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

<並河市長>

それぞれの項目は、今までのアクションプランを要約した形ですので、漏れがもしあればというふうに思います。冒頭の課題意識や柱書きについて内容と照らし合わせていただき、ご意見等ございませんでしょうか。

<森継教育長>

まず、平成 27 年度の奈良県学力・学習状況調査の結果で、市長にお渡しした資料に間違いがありましたので訂正させていただきます。中学生の「いじめはどんな理由があってもいけない」の部分について、なぜこんなに悪いのかを検証していたときに、奈良県の資料を再確認しましたら、合計に間違いを見つけました。以前は 87.7%でしたが 92.7%で、奈良県全体の平均値に対する天理市の割合は 98.6%あり、それをもって、

指標としては低いと言ってしまうことはできないと思います。

<並河市長>

特に天理が劣っているというほど悪い訳ではないと、理想としては 100 に近づけないといけない項目で、いじめのところでしっかり対策はとるべきだけれども、柱書きのところに書かなくてもよいのではないかというご意見ですね。

<森継教育長>

そうです。「自分にはよいところがある」というのも、それほど低いことはない。県の値に対する市の割合という指標をもって把握しないと、絶対的な量というのはないのでね、どこかを基準に考えたら、ここに書くほどひどいものではないと。

<並河市長>

比較で見るのはどうなのかというご指摘もあるかもしれませんが、そもそも高いか低い、あるいは全国と比べてどうなのか、本市で特に弱点がでているところは、という視点はないでしょうか。

<森継教育長>

今年 27 年度の小学生に限ったら、「学校が好き」の割合が、県を基準として考えたら 9 割をきってしまう。

<並河市長>

大事なものは、市として特に教職関係や行政の人間が、これに取り組まないといけないという問題意識を持つべきかどうか、そこに照らし合わせたらどうでしょう。

<森継教育長>

過去の調査を見ていたら、この小学校 4 年生だけが突出しているように感じるのですが、1 年だけの調査では何とも言い難い。今年に限って言えば、友達や先生から認められていないと思う子が多いように感じますが、今年だけのものか、まだ何とも言えないので、慎重にならないといけないと思います。ここ 2 年程は違うが一定の傾向にあるので、もう 1 年やってみないとここまでは書けないですね。

<並河市長>

過去の結果からみて、自己肯定感には問題ないということでしょうか。自己肯定感とか、学校に好んで行きたいという気持ちになっているかどうかなので、ここにあげたから否定しているというのではなく、課題をはっきりしながらそこに問題意識をもって、物事に取り組んでいこうということです。

<森継教育長>

学校の先生にとって、挑戦的な書き方になっていますので。それと、学習のほうですけども「読む、話す・聞く、書く」能力が低いとなると、全てということになって、身もふたもない。ここまで書かなくても、「書く能力」だけでよいと思います。

<並河市長>

特に書く能力、アウトプットが悪いということです。他の部分で、地域の魅力とか、天理の歴史文化を知るとか、わがふるさとへの思いだとか、そこから繋がってくる自分の肯定感とか、喜んで学校に行っているのか行ってないのか、それは今後、我々がとっていく施策の力点だったり視点だったり、非常に重要なキーワードだと思うんです。少ない傾向があるという書き方が問題なのか、ここについては、市としてもっと取り組んでいきたいという書き方にするのか。

<森継教育長>

提案するとしたら、8月25日に今年の小6と中3の結果がでますので、それを待ってもらいたい。

<並河市長>

わかりました。その結果を見てみましょう。教育委員の皆様、いかがでしょう。「自分にはよいところがある」という子どもの率として天理市は他市や全国に比べて課題があるということであれば、私は自己肯定感をもっと高めてあげようとみんなが意識として持つことが非常に大事だと思います。だから、自己肯定感を持てるように褒めてあげようとか、頑張った部分は可視化してあげようとか、わが町と自分とが繋がりをもっているものについてプラスの要素をもっと与えてあげようとか、そういう意識付けは必要なのではないかと考えています。

<名倉委員>

課題をあげるということは、天理市から発信する文章を見る側のことも考えていただきたいと思います。一般市民なり、保護者なりが、冒頭一番にこの文章が出てきた場合、ものすごく劣っているというイメージを強く持つのではないかと思います。何度も読み返してみたんですけども、ここまで天理市は劣っているのかと思いました。問題提起の意味で載せていることはわかるのですが、マイナスイメージが強すぎてこちらの思惑から外れてしまっただけでは困りますので。

<並河市長>

そもそも住むには適さない場所だ、と。

<名倉委員>

受け取る側の人を考えて、文章を作ってもいいのではないのでしょうか。

<田中委員>

一つは、28年度から31年度の大綱としてあげられるときに、27年度の結果だけを対象にするのは間違いではないかと思います。トータル的にどうかについては、しばらく見てからにしないと大局的な話にならないので、この傾向を中長期的にしっかり見てもらいたい。同時に、低いとか劣っているという表現は、優れている子もいるはずですし、逆に自尊感情を傷つけることになってしまうので、「課題がある」という文言にすべきではないかと。自己肯定感や自尊感情については、学校現場はもちろんですが、家庭、地域も必要ですよね。そういう意味で、もう一歩卒を広げた関わりを言っておかないと、聞く側の夢は開かないのではないかと思います。

<中嶋委員>

今の議論は、教育委員会の中でも出ていまして、率直な意見を申し上げますと、受け取る側に誤解を招くことはあるかと思います。ただ、私は当初はそんなに差し支えのある文章とは思わなかった。保護者や一般市民側で受け止めるのか、教育委員会や先生側で見るかによってこの言葉の意味が変わってくると思うので、そこは慎重であるべきだと思います。これは、市民側から考えなければと思いますので、天理市の教育が駄目だと書いてあるような誤解は生じないようにした方がいいと思います。

市長のお話や皆さんの意見を聞いて、奈良県の中でどうかとか、全国の中でどうかは、今の時代には合わないと思います。私は、現実をそのまま見て、多い少ないとか、何%という数値を書いて納得を得ることがいいという議論ではないと思います。子どもに学校が楽しいか聞いた時、心から「楽しいです」と言ってもらえるかが大事であって、そこにもっていくための文章であるべきだと思います。自分たちの地域、学校が好きだという気持ちを植え付けることが大事だと思います。

<並河市長>

目指していくべき方向性をしっかり出すべきだと。

前川委員、いかがですか。

<前川委員>

最初の5行がすごくマイナスのインパクトが強いですね。確かに、課題というのはきちんと認識したうえで取り組むべきとは思いますが、ここまで書かなくてもいいのではという気はします。

<並河市長>

いただいたご意見を参考に、文章を練り直します。確かに 27 年度だけで見るのではなく、全体的な傾向の中で、なぜその施策をするのか、現場の先生方がどういう所に重心を置いてやっていくのか、焦点がボケない形で共有されればと思います。当たり障りのない表現だからいいということではなかったもので、はっきりと書いてしまったのですけれども。それでは、2 段落目はいかがでしょうか。

<名倉委員>

はい。本市で、ICT 環境・タブレット導入によって、課題を払拭すると受け取ってしまう文章になっていますけれども、「ICT 環境の整備とタブレット導入」は、ひとつの施策であると思います。考えてみたんですけれども、例えば文言の中に「現状の課題を十分に検討し、確かな学力が確実に身につくように一層の教育の充実を図り、これからの社会を生き抜いていく・・・」と続いて、最後に ICT を載せるなど、文章をもう少し練ってもいいのではないかと思います。

<並河市長>

ICT はひとつのツールなので、この文章では全市的に ICT 化するように見えるということですね。「課題の克服に向けた取り組み」だけだと何なのかわからなかったもので、重視する方向性が出ていればと。重視する部分は何かを改めて考えてみたら、連携を重視したことがたくさんある。そういう方向性や地域の魅力を活かすという要素がたくさん入っているので、大きな押えどころが前にきた方がいい。各論すぎるということですね。確かにこれだと全市 ICT 教育をやるかのような印象になりますね。それだけで課題を克服するのではないと。そこは意識したいと思います。

①から⑤まで、共通して特に大事にしたい部分についてご意見ございませんでしょうか。1 段落目は課題を認識する、2 段落目はこういうところを意識して天理は頑張っていく、それから実際の施策が並んでいる、並びとしては分かりよいかと。ほかに 2 段落目にご意見ございませんか。

<森継教育長>

整備してタブレットを導入したらわかりやすい授業ができるという風に私は読んでみました。そうではないですね。

<中嶋委員>

すべての児童にタブレットを渡すことは、まだ考えていないのですね。一部取り入れて、ある程度の台数を導入して、授業の補助的に使用する感じですね。

<並河市長>

今、予算付けをしている最中ですが、ちょうど中学校のパソコンの入れ替え時期にあたるので、キーボード部分と切り離したらタブレットとして使えるもの、パソコン教室以外にも持って行って使えるものを今回導入しようかと思っています。

小学校でも何が取り入れられるか、予算と台数を見ながら配分を検討していますが、現在では、特定の先生が個別にしている状況が小学校で若干見られるので、もう一歩踏み込んだ形で活用できればと思っています。

<田中委員>

2段落目のところは、天理の子どもたちが「自らの力で未来を切り拓いていく力をつけるための基礎としてわかりやすい授業を展開しますよ」と、これらの課題というところがよくわからない。1段落目と結びついていない。

<並河市長>

1段落目であげた課題ですね。中身がずれていると。

<前川委員>

私も名倉委員と全く同じ意見です。課題を克服するために、いきなりICTがでてくるのは各論すぎると思います。一つのツール、手段であるわけですから。

<並河市長>

わかりました。頂いたご意見を基に柱書きを直して、次の会議までにメールか文書で一旦確認していただいた方がいいですね。その他(1)(2)の中身について、特段抜け落ちているなど、お気づきの点はございませんか。

<森継教育長>

教育委員会として努力はしなければいけないことかもしれませんが、(2)の⑥の「ディベート大会」など、「大会」とつくと市全体の小中学校で行う「大会」と思われるので、単に「ディベート」等にしてもらいたい。

<並河市長>

特にこだわりはありませんが。皆さんいかがですか。

<中嶋委員>

環境が整ったらできると思います。大事なことは、ディベートの機会であったり、人前で英語を話したりする機会を増やすということだと思います。

<並河市長>

大会をやるやらないは、ただのきっかけにすぎないのであって、イベントのためのイベントでは意味がない。でも、普段やっていることのきっかけであれば意味がある。あくまで他の人に伝える部分でディベートとか暗唱とか弁論も大事にするということです。私としては、ここに書く以上、各学校、各学年において、英語暗唱なりディベートをやるための日々の授業をしっかりとってくれるのかという点の方がむしろ関心が高いですね。

<森継教育長>

それはできると思います。ディベートは南中学校で、英語暗唱は県下でやっています。

<並河市長>

アクションプランのほうも修文が必要ですね。その他はいかがでしょうか。

<森継教育長>

⑦番は「ボランティア活動や地域行事への参加を通じて、自己肯定感及び自尊感情を高める」という書きの方がふさわしいと思う。高めるために参加するのではない。

<並河市長>

なるほど。では「ボランティア活動や地域行事への参加など社会に貢献する活動を推進するとともに、市内全校による研究課題の共通設定と授業研修会を実施します。こういった活動を通じて、自己肯定感や自尊感情も高めることを目指します」というように。参加する意義の要素のひとつではあるけれども、本来的にボランティア活動に参加するというご意見ですね。

<中嶋委員>

ボランティア活動や地域行事への参加を通じて、誰かの役に立つことで必要とされているという自己肯定感や自信が湧いてくる。

<森継教育長>

⑧番も、いじめを生まないためにする道徳教育ではないので「いじめを生まないための」が先にくるのではなく、後ろへ置き換えたらどうか。それから、KJ法やロールプレイング法ができるのか現場へ確認をとったら、「厳しい」という返答だった。

<並河市長>

そういうことも積極的に取り入れるということでは。

<中嶋委員>

KJ法以下をとって「いじめを生まないための道德教育」としてもいいのでは。

<並河市長>

そうすると、どんどん抽象的になるので、具体的に書いた方がいいと私は思っているのですけれども。どうして現場でできないのでしょうか。

<田中委員>

KJ法を用いた授業を教師は経験しているので、もう一度経験させて、やっていく方法があってもいいと思います。知らないことはないと思うので、するしないは導いたらいいと思います。

<並河市長>

予算的、物理的にではなく、ノウハウや、やる気の問題なら、なんとか頑張っていたきたい。「道德教育」のところは文章として誤解を受けかねないということですので、「いじめを生まないための」の位置を後ろへ修正しましょう。他はいかがでしょうか。

<前川委員>

(2)義務教育の項目で、10項目でていますが、柱書に学力の問題が課題として挙がっていますが、学力の課題に対する取り組みというのは、①②③⑥⑩になるのかなと見ていたのですが、①②③は今までも取り組まれていた内容だと思いますので、課題に対しての取り組みとして、それだけでは弱いかなと思います。

<並河市長>

①小中の連携は、まだ課題に対して弱いと。学力にきちんとアプローチしているという中身をもう少しここに、今までのアクションプランの中でも書ききれてないと、若干補強した方がよいというご指摘でよろしいですね。わかりました。ご指摘のとおり、強化して具体的に書ければ、検討させていただければと思います。

その他はいかがでしょうか。では(3)番から(5)番の説明をお願いできますか。

<事務局 上村>

[(3) 特別支援教育の充実 (4) 青少年の健全育成 (5) 学びの環境整備 について要点を読み上げ]

それでは、この部分につきまして委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。よろしくをお願いします。

<並河市長>

はい。これらのことについてはいかがでしょうか。ご指摘の点等ございましたら。

<森継教育長>

表現の事で言って申し訳ないのですけれども、(3)の②の「共生社会」の説明のところで「同じ場でともに育っていく」というのが「共生社会」の説明のようにとってしまうので、どう変えていいのかは分からないのですが、子どもを中心にするのだったら共生社会の形成という方向に向けていかなあかんというのはわかります。前に議論した時には、障害がある子どもを認めるというふうな話を入れるということが、同じ場でともに育っていく共生社会、そっちの方に向くのでしたら目が行くように思うので、みんなでも検討したほうがいいのではないかと思うのですけれども。

<並河市長>

同じような文章が続いていますね。ちょっとここは文言を整理しましょう。一番言いたいポイントはなんだったかという「障害の有無に関わらずお互いに認め合う」ということですね。その部分がもうちょっとはっきりわかるように。

その他はいかがでしょう。

<森継教育長>

(4)の①について、確認したんですけれども、進路学習「ようこそ先輩」というのがあると玉出ししていただいたんですけれども、これは南中限定のようなので、すべてやっているのであれば「職場体験」とか「職業人に学ぶ」というのは、ほとんどの中学校でやっています。

<並河市長>

それはどうなんですか。南中だけでやっていていいんですか。南中では好評なのでしょうか。

<事務局 吉岡課長>

やっていることは全部一緒です。言葉が「職業人に学ぶ」となっているだけで、同じ先輩を呼んできて話をするのも、職業人を呼んで話をするのも、やっていることは一緒です。ただ「ようこそ先輩」という言葉でやられているのは南中だけです。

<並河市長>

取り組みとしていいのであれば、他もやればいいのではないのでしょうか。

もともと、これはテレビ番組でしょう。後は、子ども達が、その人を連れてきたときに身近な存在として感じるのかどうか。全然、関係のない人がきてしゃべるということ

ではなく、自分と同じ学校で同じように育ってきた人がこんなふう活躍しているんだということが、より身近に感じるという要素があるのなら、それは他の学校でもやればいいことでしょうし。ここは文言の整理をしたらいいのではないのでしょうか。南中が特にそういう「先輩」という切込みを大事に職業教育をやっていて、もし、それがいい取り組みであるとすれば、他の学校でもやればいい話ですし。あの番組自体は個人的には「いいな」と思ってまして、突然「長淵が来る」と。「なぜ?」「実は先輩だった」「おおお!」という。他には、クリエイターの人の回とかもありますよね。あれは「先輩」でないで成り立たない番組ではないかと。

<森継教育長>

これは、南中の卒業生ということで本当に「先輩」なんですか。

<事務局 吉岡課長>

はい、そうです。ただ「有名」かどうかは…。

<並河市長>

有名かどうかは問題じゃないですよ。

<田中委員>

要は、先輩を招いて「学習はどうしていったらいいのか」、あるいは子どもの質問に対して先輩が答えてくれるという進路学習のひとつですよね。学生が来て、学校とも連携を図りながら、いわゆる普通科もあれば商業科も来てくれる中での、学び方を含めた進路学習ですね。おかしいのは「勤労観」というところで、いわゆる進路学習という「ようこそ先輩」というのと、勤労で先輩を呼ぶというのは違うのではないかと。かつては職場体験学習の前に「こんな仕事があるよ」「先輩、来てちょうだい」という話の中があって、その後、例えば**会社の**社長に来てもらったりしながら、その仕事の話をしてもらうというのを「ようこそ先輩」と呼んでいたのかもしれない。

<並河市長>

「OBの参加も得た」とか何とかいう形にしたらどうでしょうか。別に全部先輩である必要もないし。OBで来てくれる人がいればいいので。そこは文言を工夫しましょう。どんな類の先輩であっても、見習いたいと思うような先輩であればいいかなと思いますけれども。

他、いかがでございましょうか。

<森継教育長>

(4)の②なのですが「農作業を通した居場所づくりの取り組みを推進します」とい

うは、今、県警でやっているものを続けていこうということだと理解していますが、そこに小学校、中学校が行くのかどうか。

<並河市長>

これは農林部門と議論させていただければと思います。こちらだけでは無理で、放棄地対策とからめて、予算を付けて取り組まないと無理だと思います。ただ、一か所なりとも広げていきたいという思いはあります。どちらかというところと街づくりの話と放棄地対策の方の予算の関係で、教委と連携して考えられればという玉なので、別途、相談しましょう。こんなに農地がいっぱいあって、もったいないですよ。

<森継教育長>

うちにも農地はたくさんありますので、提供を…。

<並河市長>

でも、結局これは土地だけの問題じゃないんです。子どもが毎日来るわけではないので、作物の面倒を見てくれるふうな体制が整っていないとこれはできない。受け入れ体制がないといけないので、それなりの体制と、誰がやるのかというところ、予算づけがないと、ボランティア頼みではできないという部分があって、やれるとすれば放棄地対策の方と結びつかないといけないと思いますが、そこまでは相談でききれていないところではあります。

<森継教育長>

最後に委員の方に意見を聞きたいのですが、(2)の④の芝生の件について、委員の皆様はどう思われますか。

<田中委員>

県は推進するような指示があるのですか。

<並河市長>

吉田教育長はどんどん進めてくれという感じです。

<田中委員>

予算が立って、学校が望めば進めればよいのではないかと思います。ただ、維持費が大変だと思います。私の現場も一旦芝生をひいてもらいましたが、今はもうダメですかね。だから、維持費とかその方法とかが大変だと思います。

<並河市長>

うまくいっている例とダメな例があるので、維持費の問題で完全に尻込みするか、あるいはうまくいっているところの例を参考にしてどこかからでもがんばってみるか。

<田中委員>

それは、がんばっていただく方向がいいと思いますが。

<中嶋委員>

丹波市幼稚園は、芝生になってはいますが、その実際のところはどうかというところもありますよね。大変なご苦労が多くて。

<並河市長>

あれは維持としてはどうですか。まだ、丹波市幼稚園は狭いですよね。

<中嶋委員>

保護者が刈取りとかやっているのですよね。

<田中委員>

まだ、狭いのでね。

<中嶋委員>

あんまり広くなるとどうでしょうね。

<名倉委員>

芝生というのは、幼稚園を先に進めていくのですか。小学校ですか。

<並河市長>

もちろん、全面ということではないと思いますね。何にしたって、土じゃないと使いにくい部分もあるでしょうから。

<名倉委員>

ある一部分をそういうふうにしていこうと。

<並河市長>

その部分をどうしていこうか、全然そういうことを考えていかないのか、やっぱり芝生のそういう部分を作るのが大事だというふうにとるか。

<名倉委員>

幼稚園じゃなくて小学校にする意味というのを聞かせてください。

<森継教育長>

体力向上ということです。

<並河市長>

県が熱心なのはどちらかというと体力向上ですね。「裸足で育つ」みたいな。「足育」かなにかそういう発想の元ではないかと。

<田中委員>

8年か9年前にその方針は出ていますが、なかなか食いつく学校がなく。

<並河市長>

現知事、現教育長の体制の間は熱心だと思いますよ。少なくとも。

<中嶋委員>

実際、維持は大変だと思います。

<名倉委員>

雑草に負けてしまいますよね。

<森継教育長>

3年間くらいはボランティアの方とかは手伝って下さるらしいですけども、それを過ぎるとなかなか難しいと聞きます。

<並河市長>

昨日もお話ししましたがけれども、今の校庭開放、校庭を地域の中でどう位置付けていくかということとセットで考えないと意味がないと思います。「子ども達のためにボランティアで来てください」というだけでは人は来ないですけども、それが自分たちも休日なりを過ごせる場だったり、いろんな形で使っていく地域のコミュニティの中核の場だという位置づけに持っていけるかどうか。

<中嶋委員>

体力向上だけではなくて、公園化していくということでしょうか。

<並河市長>

そうです。要は、公園化の発想の中で位置づけていった時にどうなのか。そうすると予算の見方というのも当然変わってくるわけです。

<中嶋委員>

そうなったら、受益という、子ども達のためでもあるけど、地域の方自身のためでもあるので、維持しましょうと。

<並河市長>

そうすると、我々の考える予算の項目としても変わってくるし、そもそも、その街の中に芝生があって「青々としている状況で過ごすって気持ちいいよね」という環境が、結局、大都会の方が整備されていて、自然がたくさんあるはずの地方都市の方がいないという状況になりつつあるので、だから今、駅前整備の構想の中でも芝生のスペースというのを重視しているところです。

<中嶋委員>

今のお話しであれば「芝生化するから体力が上がるのか」というところが、つながりにくい。

<並河市長>

幅広く取り組んでいる学校では、裸足でのびのびして外遊びをさせるという形で、事業方法自体を変えてらっしゃる。まあ、私立の小学校とかの方が多いかもかもしれませんが。

<中嶋委員>

自分たちが小学生だった昭和 50 年代であれば、天理市の小学校では普通にみんな裸足でしたからね。私は、井戸堂小学校、南中ですけれども、運動会のリレーになったらみんな裸足ですよ。裸足じゃないと滑る。鉢巻しめると靴下を脱いで、裸足になって、みたい。だから、土でも可能だったんですよ。南中もそうでした。運動会はみんな裸足で。

<並河市長>

土のところだったら、のんびり座って寝ころぶ気にはあまりならないのでは。

<中嶋委員>

土の上には寝ころばないですよ。

<並河市長>

ならないですよ。芝生が青々としているところというのは、結局そういうことではないかと。たぶん、広い芝生がある住環境の中で、しばらく過ごしてたことがある人とない人と、結構、認識が違うような気がするんですけども。

<中嶋委員>

奈良県で公園といったら芝生とは違う。奈良公園とか、飛火野とか、ああいう青々としたところで、ぐっとするような感じもあるんですけども「芝生」というのがイメージとしてあまりないですね。たまたま身近に丹波市幼稚園があるので。

<並河市長>

あと、朝和保育園ですかね。

<森継教育長>

芝生が悪いと言っているわけではなくて、4年後、3年経った後のことを考えることが大事かと。

<並河市長>

いや、だから維持管理できるような体制をどうもっていくのかということではないでしょうか。

<中嶋委員>

プロ野球の球団がね、維持が大変で天然芝から人工芝になって、でもやっぱり怪我が多かったりして、また天然芝に戻ってます。商業ベースでみても維持がすごく大変というところがあって、そうではない公共の学校とか施設であれば、それと比べても維持運営の負担は増えることはあっても減ることはない。

<並河市長>

どれくらいの意識があるかにもよりますね。体制なり、地域循環なり、その校庭の位置づけというところを考えていかないことには、できませんし。

<中嶋委員>

とすれば、ここに書いてしまうと、「必ずしも全市的に一気に取り組めるのか」というところでどうでしょうか。

<並河市長>

逆に「できない」となったら、いつまでたっても学校は変わっていかない。

<田中委員>

いずれにしてもこれは体力向上と地域との連携…。

<並河市長>

が、必ず必須に。

<田中委員>

地域が「いない」と言うのであれば…。

<並河市長>

どういふもっていき方をするかです。「自分たちだけで草を引いて下さい」というふうにもっていったら、まず間違いなく「いない」とおっしゃるでしょうね。

<田中委員>

地域連携の中でこれを進めるということではないのでしょうか。

<並河市長>

まず、どこでやるのかを考えればいいのではないかと。候補は、別案件もあるので考えているところです。

<田中委員>

予定が3時なのでそろそろ次にいったらどうでしょう。文言修正を教育長とされるのはいいのですが、それは前もってしておいていただかないと。

<並河市長>

申し訳ありません。それでは、柱の部分の説明は割愛させていただいて、読んでいただければどうかと思います。2番の柱「子育て環境の整備とコミュニティづくり」について、みなさんからご意見がございましたらよろしくお願いします。

<中嶋委員>

文言で申し訳ないですけれども、私が気になったのは、前文のところ「母親のみにかかり」というところで、このあとも「母親」という言葉が3回出てくるのですが、むしろ、片親で父子家庭も増えているというなかで「父親の孤立した悩み」とかいうのがあると思います。

<並河市長>

これは、ジェンダーのことからも不適切であったと思います。「親」ということですよね。ひとり親としてもそれは「親」ということで広げた形で。

<中嶋委員>

「核家族の増加に伴って、親に～」ということではないのでしょうか。おじいちゃん、おばあちゃんがいると助けていただけるところもあったという。

<並河市長>

「市全体で育てていくための」というところにかかってくる部分なので、これは、そこにつながるようにします。

では、柱の部分に他にご意見がなければ、具体的な施策とアクションプランを比べて「ここが抜けているんじゃないか」とか「おかしいんじゃないか」とかというところがございませうでしょうか。「居場所づくり」とかそのあたりの具体的なやり方については、今、検討を進めているところです。特に、我が市では塾的な要素というよりは居場所をつくるということに、重点を置こうと思っています。

<森継教育長>

放課後子ども教室の説明は統一できるようにした方がいいですね。(2)の⑩でしたら「学習の動機づけ」となっているのと、(2)の②は「多様な学習を提供する」となっています。また、相談を進める中で訂正を。

<並河市長>

そこは合わせていけばいいと思います。

他になれば、次の「だれでも、どこでも学び合える環境づくり」のところでは何かございませうか。

<森継教育長>

すいません。先ほどの柱は「子育て環境」となっていますが、これは「子育て支援」ではダメでしょうか。3番でも「環境」が出てきますが。

<並河市長>

「しっかり支援できているような環境」ということだと思います。

<名倉委員>

「支援」も含めたおおきなくくりとしての「環境」ですよ。

<並河市長>

その他はいかがでしょうか。では「3. だれでも、どこでも学び合える環境づくり」ですけれどもいかがでしょうか。柱書きのところ、何かございますでしょうか。中嶋委員、いかがですか。

<中嶋委員>

細かく書いていただいていると思います。読んでいて特に問題は感じませんでした。生涯学習という視点をここに入れていただいて、非常に大事なところかと思えます。

<並河市長>

田中委員、いかがですか。

<田中委員>

これでいいと思います。

<前川委員>

ふと思い出したんですけれども、生涯学習の充実の中に、今取り組んでいる夜間中学は入れなくていいでしょうか。方向的に夜間中学の問題はどうしておられるんでしょう。

<並河市長>

天理市の「どこでも、だれでも」というニュアンスからすれば、せっかくしっかりとやっている案件でもあるので、おっしゃっていただいたようにあった方がいいかなと思います。

<田中委員>

基本的に、今、文科省が言っている中学校へ行ってもいじめで勉強できなかった子が行けるという体制が、今の天理であるのであれば入れてもいいと思います。

<並河市長>

今、行っている人はそういう人ばかりではないですね。

<中嶋委員>

今の夜間学校っていうのは、戦時中などで学校に行けなかったなどという方を受け入れて日本語の教育とかをしているのですね。何年か前に夜間中学に対して廃止というマイナス的に言われていたこともあれば、やっぱり必要ですよという話が、両方、二極あった中で、今、天理市が存続しているのは「生涯学習という観点でやはり必要だ」という観点で残っているというのが私の理解ですけれども、それであっているでしょうか。

<並河市長>

プラスその中学を卒業する資格を持ったから、本来、そういう人は行けないという仕切りになっているところ、実際的には「あまり行けていなかった子ども達に、もう一度行けるような話を」というようなことを、この前ニュースで見たような気がします。

<田中委員>

それをするならば、ここにしっかりと文言として入れてやらないと。

<並河市長>

それは、今、取り組みとしてやっていないにしても、良い視点ではないかと思います。

<中嶋委員>

今の夜間中学は、義務教育的な学校としての役割ですので、それをするとなると全然違ってきますよね。

<田中委員>

今の夜間中学の目的が、この生涯学習に合うのかどうかということをしかりと見ておかないといけないと思います。

<並河市長>

生涯学習の、例えば公民館でというような形の生涯学習とは毛色が違うとは思いますが。識字であったり、生きていくための基礎的な要素が多いですよね。経済的、社会的に様々な理由で学校に行けなかったという高齢の人のグループと、若い人で海外から来られた20～30歳台の方と、2グループくらいが大別してありますけれども、ただ、それが一緒の中で学んでいるところに結構、味わいがあると思っています。

<田中委員>

生涯学習であれば、やっぱり一つの流れの中で位置づけておかないといけないと思います。

<並河市長>

生涯学習ととらえるかどうかはともかく、学ぶということは人間の尊厳にとってどういう意味を持っているんだということとしっかりと向き合っている市なんだということからすると、むしろ、柱書きにしてもいいのかもしれないなというふうに思います。私としては、本来であれば「勉強したくない」みたいなことを言う子ども達全員に「学ぶというのは、根本的にどういうものなのか見ろ」というように見学に

行かせたいくらいです。生涯学習の方に載せるかどうかはともかく、どういう書き振りで入れるのかは、整理をさせていただければ。

他はいかがでしょうか。では、4番目はいかがでしょうか。

<並河市長>

「人権感覚づくり」という表現はどうかと思っています。人も自分も大切にするというところで、もともとは「人権文化の高揚と世界で活躍するグローバルな人材づくり」でしたよね。それが混在して、とってつけた感じが若干あったので、「国際ってなんだろうか」という議論の中に、「どこに行っても通用するっていう人間であるためには、しっかりとした人権意識を持っていないとダメだっていうところであればつながるだろう」という話がありました。その中で、自尊という部分もありましたけれども、人も自分も大切にするというような中に人権という言葉を読み込んでいったらどうだろうというようなことで、ここは文言を変えています。前回の会議の中で、人権自体、ひとつの柱として立てるべきかどうかというところについては、皆様方から「これはやはりひとつの柱として残すべきである」というご指摘であったと認識しています。

中嶋委員、いかがですか。

<中嶋委員>

そうですね。人権感覚という言葉があるのかどうかはわからないですけども、私は、そういう言葉があるのであれば、この文章でもいいかと思います。

<田中委員>

「人権感覚が問われる」という使い方はします。「人権感覚を磨く」とか。

<並河市長>

事務局にそういう意識はありましたか。

<事務局 上村>

はい。「人権感覚」というのは前からある言葉で、総合計画の中の人権の部分も、この2行目に書かせていただいている内容でまとめてあります。

<名倉委員>

人権感覚や国際感覚という似た感じの文言ですので、バランスが取れていていいかもしれません。

<並河市長>

文言以外に、全体としてはいかがですか。

<名倉委員>

2番の国際交流の推進はもっとたくさんあるのではないかなと思います。意外と短いなど。もっと国際感覚を養う、天理市にいてすごくいい意味での国際交流ってもっといろいろあるのではないのかと。この2行だけだったら少ないような気がします。

<並河市長>

アクションプランの方にはもう少し書いてありますが。

<名倉委員>

枠も空いているし、もう少し書いてもいいのではないかと。

<並河市長>

わかりました。

<田中委員>

人権教育の推進の①のところの「理解教育」ってあるのかなと、読んでいて思ったのですが。「理解のための教育」と入れないと国際理解教育と。ちょっと気になりましたので。

<並河市長>

わかりました。

<前川委員>

天理教の信者さんが多く来られますけれども、意外と市民の皆さんとの接点というのが少ないと思います。それをいかに国際感覚を養うにあたって、市が天理教とパイプをもってそういう機会を設けていただけるかというところにポイントがあると思います。

<並河市長>

今はイベントでフェスタインドネシアとワールドフェスタとがあるだけかなというようでした、ちょっともったいないなという思いはあります。

<田中委員>

我々も、教科で国際理解教育を行いたいという時に、直接交渉に行ったりしますが、そんな窓口があればいいと思います。「こんな勉強をしたいけれども、紹介してもらえませんか」というような。

<並河市長>

海外の事についてでしょうか。

<田中委員>

海外の事についての、人の派遣とか、学びの派遣とか。例えば、私だったら、語学院に走って行って直接交渉に行く術はありますが。年に何回か学校を決めて取り組んでおられるけれども、それ以外でイメージされた時に相談できる窓口を市でお願いできたら。

<並河市長>

田中先生が行かれる分については、向こうもピンとくるけれども、他の方がいきなり海外部なり語学院に訪問できるかということと確かに、誰かがつながりがないと難しいところがあるかもしれないですね。

<森継教育長>

でも、そうしたいと思う人って教育関係者だけじゃないですか。一般の方でもおられますか。

<田中委員>

地域でいろいろあるのではないかと。

<名倉委員>

英語をグループで習いたいとか…。

<森継教育長>

英語ですよ。

<名倉委員>

他の国の事を知りたいとか。あるんじゃないでしょうか。

<並河市長>

留学生のところと、地域のというところはもうあと一步深めたいというようなご意見が多いのかなと思います。そのための相談の窓口だったり、何ができるかはあれですけども、問題意識としては、いったん検討できればなと思います。

<並河市長>

それでは次に「重点施策」という形であげさせていただいているところです。これは教育の重点施策というよりは、最終ページに書いてあります、地方創生の総合戦略の中

でやっていっているものと、今回の教育大綱を、天理市の場合はお互いに考え方をしっかり取り入れるというところで、人づくりと街づくりを繋いでいくという視点を大事にしたいと思って載せているところです。ここに書いてあることが教育的な点での重点施策という事ではなくて、創生の部分にもつながっていくものとして取り上げているということでございますけれども、これらの点について、もし違和感なり取り上げ方としてどうかということがございましたらお願いします。

<中嶋委員>

この2番に「ICTを活用した学習の充実」とあるのですが、これまでの議論を聞いていると、これを例えば4番くらいにして、放課後の子ども教室や土曜講座というのが2番で、3番で高校や大学、地域との今の教育機関との連携という順番にされたらいいんじゃないかと思います。その同じ2番のところで高校受験や大学受験に向けた学習環境とあるのですが、そういう表現がいいのかなと思います。

<並河市長>

ここは今、これがどこまで有効かというところも含めて、もう一度議論しましょう。

<中嶋委員>

そうですね。ここを先ほどおっしゃった進路全体と形、全体的な感じの教育というところにもっていけたらいいのかなと思います。

<並河市長>

(2)は両方の部分がありまして、ひとつは、高原の街づくり協議会の中で本来であれば、ちょっとまだ相談しきれていないところで「特区」の話が書ききれていません。

<中嶋委員>

街づくりの中での学校の役割の部分がからんでくるのでしょうか。

<並河市長>

そうですね。それと特に高原対策という要素を入れたいということです。

<森継教育長>

地域創生とかの観点から、これではわからないですが。

<並河市長>

一番最初の部分ですね。

<森継教育長>

僕みたいな人間は柱書をあまり読まないで下ばかりを読むので「これが重点施策か」という感じで読みました。

<並河市長>

柱書の部分をもう少しわかりやすくすべきだと。

<名倉委員>

私もそう思っていて、黄色ですごく目立つのに「人づくりと街づくりをつなぐ重点施策」と書いてしまうと、「あれ、教育大綱の重点施策はどれだ」って思ってしまうので、もうちょっと文言を足すとか、違うように書いていただけたらいいと思います。

<並河市長>

なるほど。わかりました。

先ほどの説明を聞いた上だったら、「ああ、そういうことなのか」と思いますか。

<名倉委員>

思います。「天理市総合戦略の大きい枠組みでの」という引用をちょっと入れていただいたら、と思います。

<並河市長>

わかりました。後半部分が、駆け足になってしまっていて、申し訳ありません。今後の進め方としては、今日いただいた柱書へのコメントや各施策へのコメントを反映していつ頃を目処に修正する予定ですか。

<事務局 上村>

次回の総合教育会議はもう予定をとっていただいております、9月4日でございます。9月1日か2日には、今のコメントを受けて修正したものをお配りします。

<並河市長>

できれば、9月4日までにはできるだけ余裕のある形で前もって今日いただいたコメントを返させていただきます。9月4日にほぼほぼこれを固めたいということですね。

<事務局 上村>

はい。10月1日からパブリックコメントの募集を行いますので、固めたいと考えています。

<並河市長>

9月中に会議はもう一度やる予定ですか。

<事務局 上村>

4日の後は考えておりません。4日も意見が出るとお思いますので、その修正はしますが、当初の予定としては以降の会議は想定していません。

<並河市長>

今日は時間になってしまいましたので、特段のコメントがなければ閉めさせていただきます。今日、議論できなかったところとして表題の部分があります。我が市として「この要素が大事なキーワードになるのではないか」というところのご意見がございましたら、9月4日までにはいただけると、ありがたいと思います。いくつか、方向性の候補をお出しして、9月4日にはその大綱を固めるとともに、表題のところについても、整理をできればと思っていますが、それでよろしいでしょうか。

<中嶋委員>

表題は、これでいいと思います。「ともに学び 夢を育むまち」というのは、この中身に非常にあっていると思います。写真も「仮に」とおっしゃっていますが、子どもの数も2人ではなくて3人だし、委員の中でも、これはすごくいいなど。表紙はすごくいいと思います。

<並河市長>

表紙には好評価をいただいたということでしょうか。

<森継教育長>

「ともに学び、」の「、」はいらないのでは。

<並河市長>

キャッチフレーズ的に、そうかもしれないですね。要素や方向性としてはこれでいいんじゃないかというご指摘かと。

<田中委員>

「学び」があるのであれば「歩み」もあつたらいいんじゃないかと思います。学んだだけで「さよなら」と言われたたら寂しい。市長がもっと子どもに夢を作っていたら、いいんじゃないかなと思います。

<中嶋委員>

「ともに歩む」。いいじゃないですか。深いですね。「学ぶ」だけじゃだめですね、ともに歩んでもらわないと。

<並河市長>

ここは、事務局として考えていただいたところで、私はまだ意見を言えてない部分でして、きちんと詰まっていないところです。

<前川委員>

いくつかある中では、これでしょうね。この中では断トツかなと。「夢育むまち」でもいいかもしれませんね。あるいは「夢」を別の言葉で置き換えても。

<名倉委員>

すごくまとまっていて、これだけのものを作るのは大変だったと思います。

<中嶋委員>

そうですね。これまでの議論からするとかなりの作業量があったと思いますね。

<並河市長>

事務局のみなさんへのお褒めの言葉を頂戴したということで、それでは、今日は一旦、閉めさせていただきたいと思います。長時間、ありがとうございました。

<事務局 木村>

それでは、長時間にわたりまして、ご議論いただきましてありがとうございました。本日、承りましたご意見につきましては、先ほど申し上げましたように4日の次回の総合教育会議の前までにまとめあげる形で前もって委員の皆様にはお配りしたいと思います。次回は9月4日（金）午後3時30分から、場所は同じくこの特別会議室でございますので、よろしくお願ひ申し上げまして、本日の総合教育会議の方、終了させていただきます。ありがとうございました。

(午後3時閉会)